

予報期間 10月9日から10月15日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第22号については最新の台風予報を参照。
- 11日は、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。熱帯低気圧が日本の南を北西に進む。
- 12日は、高気圧は日本のはるか東へ移動し、日本付近が気圧の谷となる。
- 13日から14日にかけて、大陸の高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 14日から15日にかけて、日本付近を気圧の谷が通過し、大陸の高気圧が日本海に張り出す。

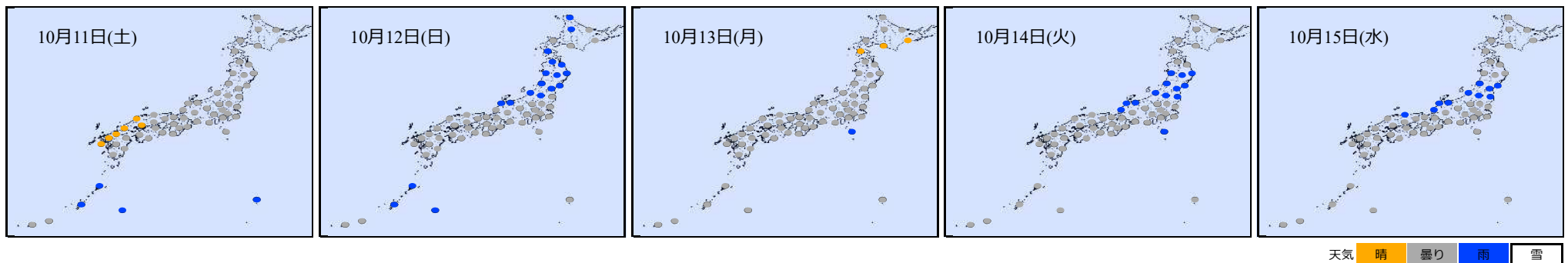
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

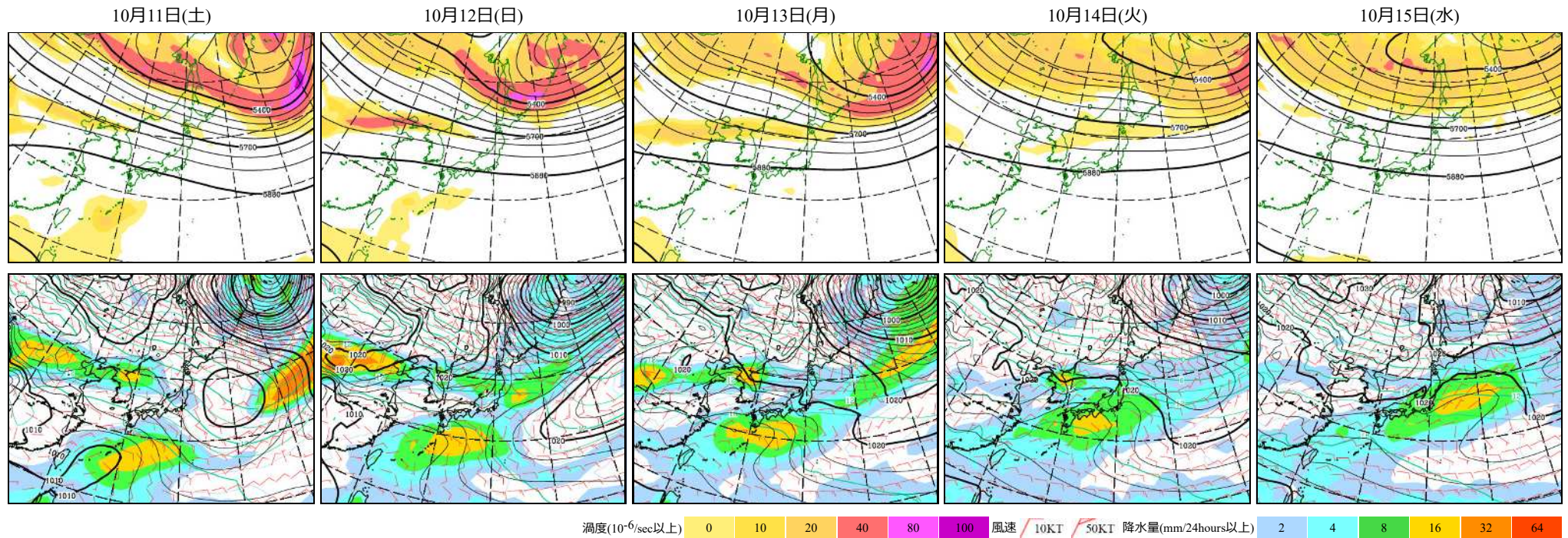
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

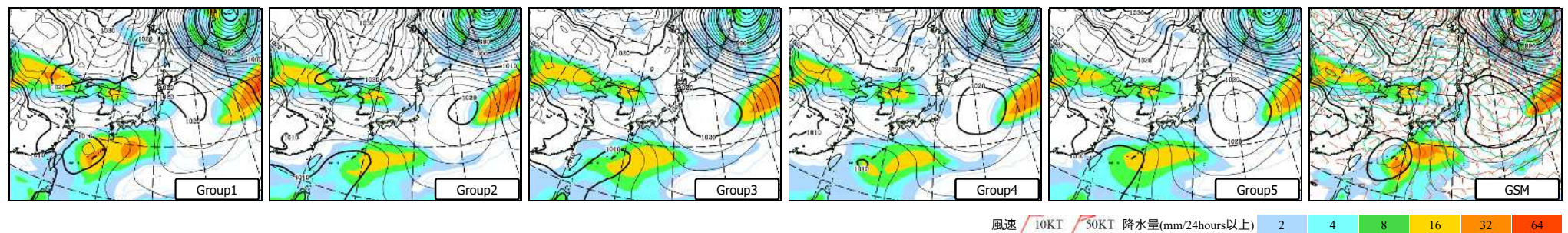


- 北日本は、晴れる所もあるが、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、曇りの日が多く、雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れる所もあるが雲が広がりやすい。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、11日と12日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。12日にオホーツク海に進むトラフがやや深くなり、14日にサハリン付近に進むリッジがやや明瞭になった。地上の気圧配置の予想は、13日は大陸の高気圧の北日本への張り出しが強まった。
- 北日本付近に進むトラフの予想が初期値変わりをしているモデルもあるが、期間を通してモデル間の差は小さい。
- 熱帯低気圧が本州南岸付近を進む可能性もあるが、熱帯低気圧の予想には初期値変わりが大きく、モデル間の差もある。ENSは、11日に熱帯低気圧が沖縄・奄美付近に進むメンバーが多いが、位置や発達にはばらつきがある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 日本の南を北西に進む熱帯低気圧は、今後日本付近に近づく可能性がある。熱帯低気圧の動向によって予報が大きく変わる可能性があることに留意。